

ご利用になる前に必ずお読みください

このPDFファイルの内容についてのご質問・お問い合わせは株式会社アスキー・メディアワークスでは一切お受けできません。ご自身の責任においてご利用ください。



この作品は、クリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスの下でライセンスされています。この使用許諾条件を見るには、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/>をチェックするか、クリエイティブ・コモンズに郵便にてお問い合わせください。住所は：171 Second Street, Suite 300, San Francisco, California 94105, USA です。

このファイルをクリエイティブ・コモンズの表示-非営利-継承 2.1 日本ライセンスに基づいて利用する際には、下記クレジットを必ず作品や配布物に表示する必要があります。

クレジット：

- 文/vine_user (ブログ「独学 Linux」 http://blog.livedoor.jp/vine_user/)
- 写真/長谷川朗・岡田清孝
- デザイン/シオズミタロウ
- 初出/株式会社アスキー・メディアワークス「Ubuntu Magazine Japan vol.01」 (<http://ubuntu.asciimw.jp/>) 2009年9月29日発行

もっと速く! もっとベンリに! もっと楽しく!

Ubuntu + a で ネットブック

超活用ガイド



製品によってはリカバリーディスクが付属せず、自分で作成する必要があるものもあります。その場合、作業前にリカバリーディスクは必ず作成してください。また、失っては困るソフトや個人で作成したデータも別途必ずバックアップを取るようになってください。作業については自己責任において行ってください。結果について編集部はその責を負いません。

文 vine_user
(ブログ「独学Linux」)
http://blog.livedoor.jp/vine_user/



■通常のUbuntu 9.04 日本語 Remixをインストール後、「ubuntu-netbook-remix」をSynapticで追加した例。使い慣れたGNOMEメニューやパネルも使えるようになっている。

USBメモリを1本用意!

■インストールに使うライブUSB用なので、安価な1GBか2GBのものでいい。必要ならデータや購入時の付属ソフトのバックアップを取っておこう。

高速起動の9.04を
ネットブックに入れる!

いまだ根強い人気を博しているAtom搭載のネットブック。各社から次々と新製品が登場しているが、国内でUbuntuがプリインストールされているネットブックは、Ubuntu 8.04 (デルカスタマイズ版) が採用されたデルの「Inspiron Mini」だけだ。最新バージョンのUbuntu 9.04 (Janity Jackalope) を導入するには、それなりのコツがある。ネットブックでは、通常、光学ドライブ

が搭載されていないため、今回はUSBメモリを使ったインストール方法を紹介しよう。作成したライブUSBは、緊急時の復旧用に使えるし、ハードディスクからデータを救い出すこともできる。なお、最新版のUbuntu 9.04にはいくつか種類があるが、ネットブックでデスクトップ用途で使うには、通常の日本語RemixかNetbook Remix (UNR) を選択するといいたい。ちなみに、UNRには日本語版がないので、導入後に日本語環境を整えなければならない点に注意しよう。

Ubuntu 9.04を入れるのだ!!

NetBook
超活用
Guide

Ubuntu 9.04 Netbook Remix



IMG

■UNRはisoファイルではなく、imgファイルで配布されている。これは、通常のライティングソフトでは書き込めないため、imgファイル専用のツールが必要だ。

<http://www.ubuntu.com/getubuntu/download-netbook>

Ubuntu 9.04 日本語 Remix



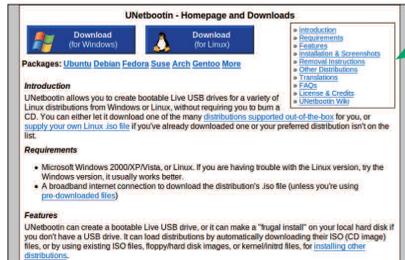
ISO

■日本語Remixは、isoファイルで配布されている。isoファイルをUSBメモリに保存するだけでは使えない。USBメモリにディスクイメージをつくる必要がある。

<http://www.ubuntu.jp/products/GetUbuntu>

Get!!
Ubuntu

UNetbootin



ISO

「Download(for Windows)」の部分をクリックすると、「.exe」ファイルが直接ダウンロードできる。Ubuntuや他のディストリビューションでも配布されている。

<http://unetbootin.sourceforge.net/>

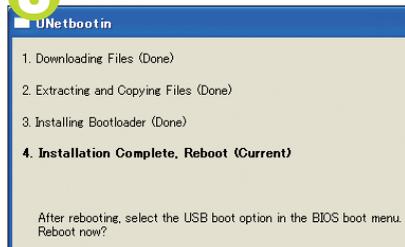
Windows XP上で、isoファイルからライブUSBを作成するには「UNetbootin」が便利だ。「UNetbootin」は、インストールCDのisoイメージを入手できれば、簡単にライブUSBを作ることができる。Ubuntuに限らず、ほとんどのディストリビューションに対応している点にも注目したい。

NetBook 超活用 Guide

STEP 01

WinXPで日本語RemixのライブUSBをつくる!

3 ライブUSBの完成!



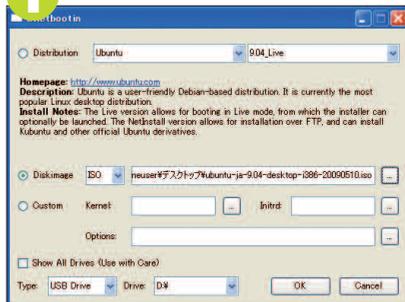
「Reboot Now」で再起動。BIOSをUSBメモリから起動するように設定変更すればライブUSBが起動する。

2 isoファイルを選択



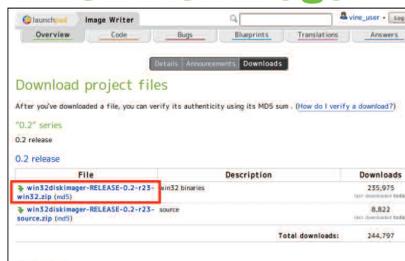
Diskimageの行の右端をクリックしてUbuntuのisoファイルを選択。Typeの右が書き込み先のUSBメモリ。

1 ディストリを選ぶ



ダウンロードした「UNetbootin」をダブルクリックで起動する。「Distribution」の部分で「Ubuntu」の「904 Live」を選択する。

Win32 Disk Imager



IMG

「win32diskimager-RELEASE-0.2-r23-win32.zip」という名前のzip圧縮されたファイルをダウンロード、事前に展開しておく。

<https://launchpad.net/win32-image-writer/+download>

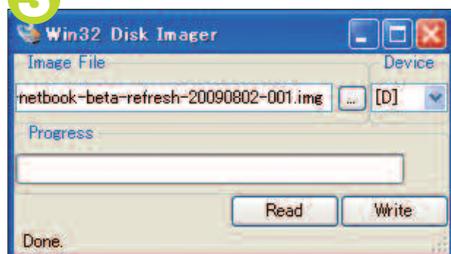
「Ubuntu Netbook Remix」や「Jolicloud」、「Moblin」などのネットブック向けディストリビューションはisoではなく、img形式のファイルで配布されている。Windows XP上で、imgファイルからライブUSBを作成するには、「Win32 Disk Imager」を使えば、簡単に作成できる。

NetBook 超活用 Guide

STEP 02

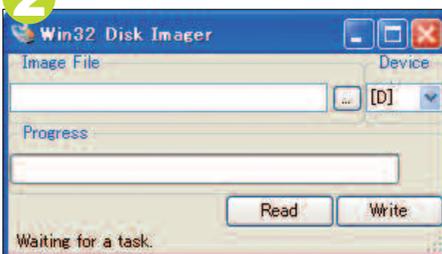
WinXPでUNRのライブUSBをつくらう!

3 ライブUSBの完成!



終了画面。左下に「Done.」と表示される。途中でエラーが出なければ、正常に作成できているはずだ。

2 imgファイルを選択



Diskimageの右端をクリックしてUbuntuのisoファイルを選択。DriveでUSBメモリを指定しよう。

1 img書き込みソフトを起動



展開したフォルダー内の「Win32DiskImager」というUSBメモリ型のアイコンをクリックして起動する。

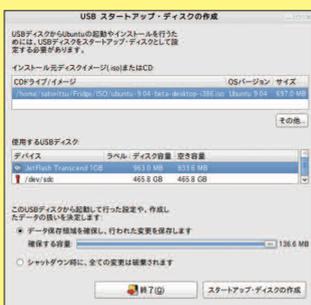
UNRのライブUSBなら



「ImageWriter」(<https://launchpad.net/ogra/+archive/ppa>)からダウンロードを使えば、imgファイルからライブUSBを作るのはカンタンだ。

IMG

日本語 RemixのライブUSB



初期状態でも[システム管理]メニューにある[USBスタートアップディスクの作成]でライブUSBをカンタンに作成。

ISO

Ubuntu 9.04なら、ライブUSBを作るのはカンタンだ。「システム」・「システム管理」・「USBスタートアップディスクの作成」で、ライブUSBが作成できる。データの保存領域も指定可能だ。ライブCDで起動したPCからでも作成できるので、ぜひ1本つくってみたい。



ネットブック・リミックスをインストール!!

インストール前に注意したいこと

ほとんどのネットブックは、Windows XPがプリインストールされ、HDDにリカバリー用の専用領域が設定されている。パーティション設定で、この領域を消してしまうと、購入直後の初期状態に戻すことができなくなってしまう。ネットブックにはリカバリーディスクが付属しない機種も多いので、万一の時のためにも、インストール前に必ずリカバリーディスクは作成しておこう。

本来は、HDDを交換してUbuntu専用HDDに入れるのがもっとも安全だが、分解しないことと取り出せない機種もある。ここでは、リカバリー領域が先頭にあり、それ以外のパーティションはCDドライブのみとなっている機種を前提とし、Windowsのデータ領域を縮小して、WindowsとUbuntuのデュアルブート環境を構築してみる。まずはライブUSBから起動しよう。

パーティションに注意!!

先頭の小さなパーティションがリカバリー領域。消してはいけない。

1 言語の選択

最初は言語の選択だ。矢印キーで日本語を選択しエンターキーを押す。これでガイドが日本語表示になる。

2 [Try Ubuntu...]を選択

いちばん上の項目を選択し、お試モードで起動する。動かないハードがないか確認。

3 インストールを選択

無事に起動し、ハードの動作を確認できたら、お気に入りのカテゴリーの「インストール」をクリック。

4 言語の選択

インストールの準備はよろしいですか? いくつかの質問に答えると、サイズ以外の情報が自動的にインストールされます。インストール中は、CDをはずさなく高機能システムを動作させることができます。

5 時刻の設定

「Asia Tokyo」が選択され、時刻が合っていることを確認して次へ進む。

6 キーボードの選択

キーボードの設定。日本語キーボードなら既定値の「Japan」のままでよい。

7 パーティション設定

「それぞれ別のもので…」を選び、下部のバーの白い部分をスライドさせ、Ubuntuに割り当てる容量を決める。

8 パーティション変更

「ディスクへの変更を書き込み、続けますか?」と聞かれるので「続ける」をクリック。クリック前に慎重に確認を。

9 ログイン名とパスワード

ユーザー名とパスワードの設定。このパスワードは、管理者として実行する際にも用いるので、忘れないよう注意する。

10 設定のインポート

表示された項目にチェックを入れると、他のOSの設定が可能な範囲で継承される。

11 最後の確認画面

内容を確認して、「インストール」ボタンをクリックしてインストール開始。

12 インストール完了!

ほぼ10分程度でインストールは終了。[今すぐ再起動する]をクリック、電源が切れたら、USBメモリははずしておこう。

ネットブック超活用ガイド

画面モードを切り替える



Ubuntu Netbook デスクトップ

■インストール直後のデスクトップデザイン。左サイドはアプリケーションやシステムのカテゴリ、中央にランチャー、右サイドにディスクやフォルダ、右下にログアウトのアイコンが表示される。



メニューで切り替える

■ [システム] - [設定] - [デスクトップモードの切り替え] でデスクトップ環境の変更が可能。



クラシックデスクトップ

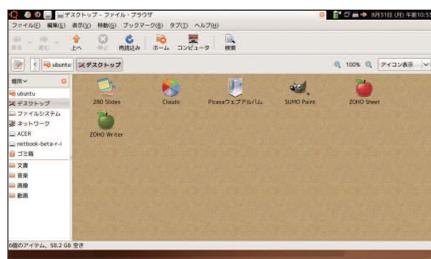
■通常のUbuntu 9.04のデスクトップデザイン。こちらでCompizを使ったら、Netbookデスクトップに戻すときに視覚効果をオフにするのを忘れずに。

デスクトップ環境を変更して使いやすく

ネットブック・リミックスのデスクトップは、アプリケーションが大きなアイコンで表示され、比較的小さな液晶画面でも使いやすいインタフェースになっている。左サイドのカテゴリはGnomeメニューの項目に対応しており、アプリケーションの登録はGnomeメニューと同様に「設定」メニューで変更できる。また「設定」で「デスクトップモードの切り替え」で、「クラシックデスクトップ」を選択すると、いつでも通常のデスクトップに切り替えられる。

通常のデスクトップで、ウィジェットを配置してCompizを楽しむもよし、ネットブック用のデスクトップで使いやすくするもよし、それぞれ好みで選択しよう。なお「Ubuntu Netbook デスクトップ」を利用する際は、Compizを無効にしておいたほうがいい。これは、それぞれの描画のしくみが違うため。Compizを有効にしたままデスクトップを切り替えると、表示が不安定になってしまう。どちらを選ぶかは好みの問題で、デスクトップにアイコンやフォルダを置いておきたいという人は、通常の「クラシックデスクトップ」を選択しよう。

ランチャーで簡単アクセス



■ZOHOWriter、SUMOPaintなどをPrismで登録。それぞれのランチャーはデスクトップフォルダの中に作成される。

ネットブックは、ネットにつなげてこそ。つまり、カスタマイズのポイントはウェブサービスの活用ということになる。ここでは、GmailやGoogleドキュメントなどのウェブサービスをローカルアプリのように使えるようにする「Prism」を利用して、ウェブサービスを「アプリケーション」として追加してみよう。保存容量の制限などがあるもの、いずれもユーザ登録するだけで無償で使えるのもうれしい。

Prism化されたサービス

- Gmail (Googleメール)
- Googleカレンダー
- Googleリーダー
- Googleグループ
- Googleドキュメント
- twitter
- Facebook
- Google Talk
- Google Analytics

人気のウェブサービスは、「追加と削除」ですでにPrism化されたものが見つけられる。設定の手間がなく便利。

Prismのインストール



[アプリケーション] - [追加と削除] で表示を「全てのオープンソースアプリケーション」にして検索。

実行権限を与える



■ウェブサービスのURLと名称を入力。「Desktop」にチェックを入れるとデスクトップにファイルができる。

■ファイルを右クリック。[プロパティ]の[アクセス権]で「プログラムとして実行できる」をチェック。

Prismでサービス登録



「Prism」はURLを指定することで、ウェブサービスをローカルアプリのように登録できるアプリ。Prismを起動したらウェブサービスのURLと名称を入力し、「OK」をクリックする。また、デスクトップフォルダにランチャーを登録するために「Create Shortcuts」

の「Desktop」にチェックを入れておこう。これでデスクトップに作られる「○○.desktop」というファイルに実行権を与えれば、Prismのアイコンが変わり、クリックで起動できるようになる。アイコンを変更するには、右クリックメニューの「プロパティ」[基本]の部分に表示された画像をクリックして、アイコンとして使いたい画像を選ばない。

Customize

ウェブアプリを導入して楽しもう!!

ウェブサービスをふつうのアプリ同様に!

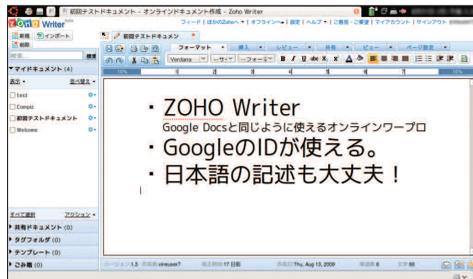
ネットブック・リミックスのおすすめカスタマイズ

共有、同時編集もできるオフィス

ZOHO Writer/Sheet

<http://www.zoho.jp/>

Googleアカウントでログイン可能



- Zoho Writer
- Google Docsと同じように使えるオンラインワープロ
- GoogleのIDが使える。
- 日本語の記述も大丈夫！

ZOHO Writerはワープロ、ZOHO Sheetは表計算のウェブアプリだ。インタフェースがマイクロソフトオフィスに似ていてなじみやすい。ほかにもPlanner、Wikiなどさまざまなサービスがある。

文書・表計算

PCのフォルダとウェブが常に同期！

Dropbox

<https://www.getdropbox.com/>



定番のオンラインストレージ！

ホームディレクトリにDropboxというフォルダが作成され、その中身はネット経由でウェブと自動で同期される。複数のPCを使う場合とても便利なサービス。2GBまで無料で利用でき、大容量の有料サービスもある。

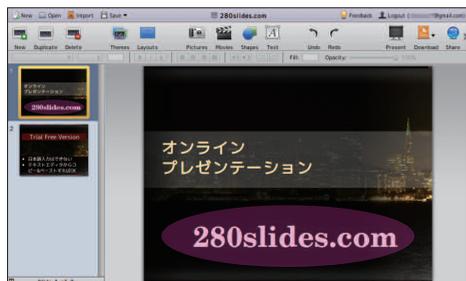
ファイルサービス

カッコいいプレゼンを作成&共有

280Slides

<http://280slides.com/>

SlideShareへの公開機能もある



プレゼンテーションを無償で作成できるウェブサービス。YouTubeやFlickrからの素材取り込みも可能。日本語の直接入力できないが、エディタからコピー＆ペーストすれば、日本語表示は可能だ。

プレゼン

使い勝手のいいストレージサービス

Box.net

<http://www.box.net/>

ドラッグ&ドロップでラクラク！



無償で使えるのは1GBまでだが、ポップアップウィンドウでファイルを複数まとめてドラッグ&ドロップでアップロードできるのが特徴。別途「Icedtea Java」プラグインを導入しておこう。

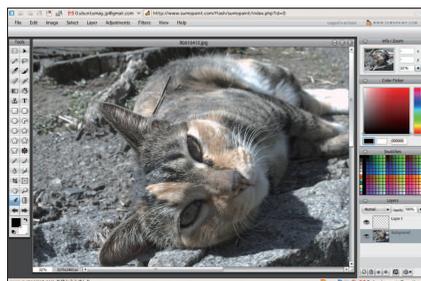
ファイルサービス

ブラウザ上でフォトタッチ？

SUMO Paint

<http://www.sumopaint.com/>

高性能な画像処理サービス



フォトショップやGimpに似た画像処理を行えるウェブサービス。レイヤーなども使える高性能さがポイント。PC内の画像をウェブ上で処理し、再びPCに保存できる。PNG、JPG形式に対応。メニュー表示は英語。

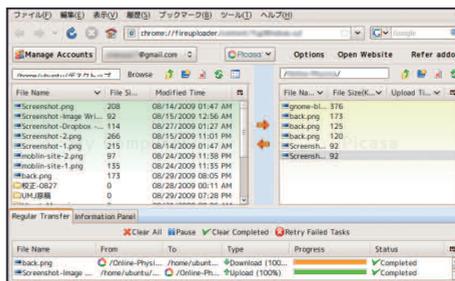
画像処理
レタッチ

ブラウザからアップロード！

FireUploader

<https://addons.mozilla.org/ja/firefox/addon/4724>

人気ウェブサービスに対応！



Googleドキュメント、Picasa、flickr、Box.netなどに多くのサービスに対応したFirefoxアドオン。複数の画像をまとめてアップロード、FTPクライアントのように使える便利なアドオンだ。

FTP
アドオン

ウェブOSでクラウドを先取り！

Cloudo

<http://cloudo.com/>

美しいインタフェースが魅力



幅広いビジュアルのテーマが用意されたウェブOSのひとつ。Windows風、Mac風、Linux風などそれぞれ慣れ親しんだOSのテーマが自由に選べる。まだベータで、メニューなどは英語だ。

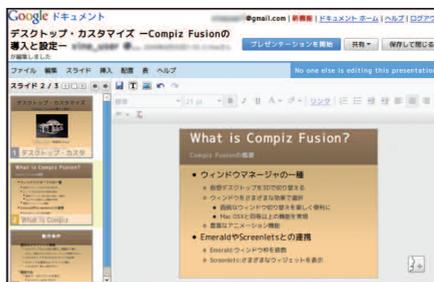
ウェブOS

オフィス系ウェブアプリの決定版

Googleドキュメント

<http://docs.google.com/>

共同作業で文書作成もできる！



Googleドキュメントは、Googleアカウントを登録しておけば利用できる無償サービス。ワープロ・表計算・プレゼンテーションの機能を備え、共有もできるなど共同作業もやりやすい。

文書・表計算

ウェブアプリをローカルアプリのように使う!!

「Jolicloud (ジョリクラウド)」は、おもにネットブックを対象とした、Ubuntuベースのクラウド対応デスクトップビュイションだ。

基本的に「Ubuntu Network Remix」から派生したデスクトップビュイションだが、ウェブアプリをローカルアプリのように扱う「Prime」の機能を使って、人気のウェブアプリをワンクリックでインストールできる。ランチャーに大きなアイコンが並び、ビジュアルな

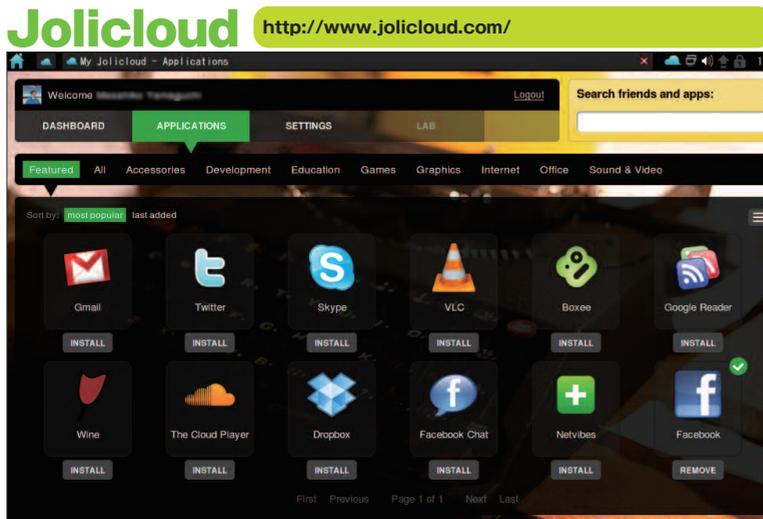
インタフェースも魅力のひとつ。

右上の通知スペースにある雲のアイコンをクリックすると表示される「My Jolicloud」では、インストールできるアプリがリストアップされるほか、ユーザどうしがフォローしあうこともできる。友人が「ジョリクラウド」を使い始めると、「Notifications」のお知らせが来るというしくみだ。

なお、「My Jolicloud」はネットに接続していないと起動できない。

動作確認されている ネットブック

■おもなネットブックでの動作確認 (動作保証ではないので注意)。サウンド関連や速度面でのバグもアップデートで取り除かれつつある。



- エイサー Aspire One, Aspire 150
 - ASUSTeK Eee PC 700, 701, 701SD, 704SD, 900, 900A, 901, 904HD, 1000, 1000H, 1000HD, 1002HA, 1005HA, 1008HA, S101 / Eee Box B202, Eee Top 1602 (タッチパネルなし)
 - Compaq Mini 700EF
 - デル Mini 9, Mini 10v, Vostro A90, Latitude 2100 (タッチパネルなし)
 - HP Mini 1000, Mini 2133 (一部サポート)
 - インテル Classmate および派生製品
 - レノボ S10
 - MSI Wind U100, Wind U120, Wind U150
 - サムスン NC-10, N-310 (ウェブカメラ非対応)
- ※Jolicloudによる動作確認、製品名は海外での販売名称です

ライブUSBでインストール

Install

1 専用ツールをダウンロード

2. Download Jolicloud USB Creator

The Jolicloud USB Creator is a new tool that facilitates the creation of a bootable Jolicloud USB key.

- Jolicloud USB Creator 1.1.4 for Apple Mac OS X 10.4 Tiger, 10.5 Leopard
- Jolicloud USB Creator 1.1.0 for Microsoft Windows (x86 32bit only) XP, Vista, 7
- Jolicloud USB Creator 1.1.2 for Linux* (x86 32bit only)

*Your internet browser and browser cookies are stored in the privacy of Google

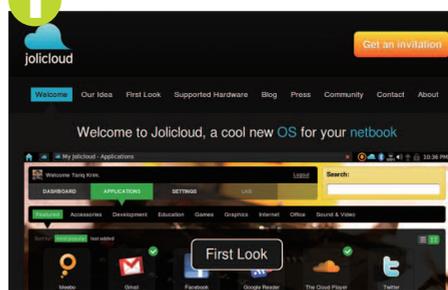
<http://www.jolicloud.com/community/get-jolicloud>

■ジョリクラウドはUbuntu Netbook Remixと同様にimg形式のファイル。「Win32 Disk Imager」または専用のインストーラ「Jolicloud USB Creator」を左のページからダウンロードしてライブUSBを作成しよう。

ライブUSBでインストール

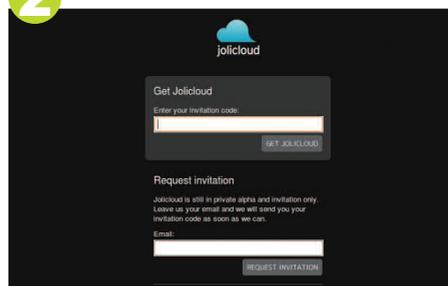
Download

1 Jolicloudにアクセス



■ジョリクラウドは、まだプライベート・アルファ版の段階なので招待制をとっており、入手するにはまずメールアドレスを登録して、Invitationメールが届くのを待たなければならない。右上の「Get an invitation」をクリックする。

2 招待メールをリクエスト



■下部のEmail欄にアドレスを入力して右下の「Request invitation」ボタンをクリックする。登録したメールアドレスに招待メールが届くのを待つ。メールの到着は、当日から数日かかることも。

2 Jolicloud USB Creatorを使う



■「Browse」ボタンを押して、ダウンロードしたジョリクラウドのimgファイルを選び、「Target Device」にインストールするUSBメモリを選ぶだけなのでカンタン。

3 招待コードを入力してゲット



■2の画面で、メールに記載されている「Invitation code」を入力するとダウンロードページに「Download」ボタンをクリックすればダウンロードできる。

3 インストール開始



■ライブUSBができれば、PCを再起動。BIOSでUSBメモリから起動するように設定変更すれば左のような画面が表示される。手順はUNRとほとんど同じだ。

ジョリクラウドを起動すると、「Ubuntu Network Remix (UNR)」と同様な画面が現れる。このままでは、見た目がUNRとほとんど変わらないが、「My Jolicloud」という雲形のアイコンをクリックすると、独特な美しいインタフェースに切り替わる。「My Jolicloud」の機能としては、Synapticのパッケージマネージャの代替と考えていいが、数多く

のウェブサービスを含み、インストールがワンクリックで完結するというところに大きな違いがある。初回起動時は、左の手順でログインしよう。ほかに「My Jolicloud」では、ジョリクラウドを使っている友人をフォローすることもできる。フォローしている友人がインストールしたアプリの履歴が見られたり、友人のログインが通知されたりなど、オンラインでの接続を利用した機能が盛り込まれているのも、大きな特徴のひとつだ。

2 登録したIDでログイン



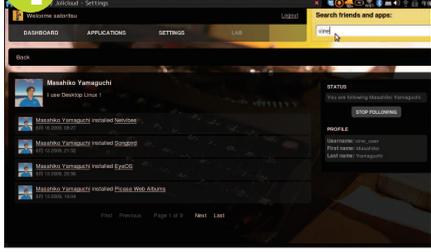
▲オレンジ色のボタンをクリック。アカウントを作成し、登録したIDでサインインする。

1 ジョリクラウドのメイン画面



▲右上の通知スペースにある「My Jolicloud」（水色のアイコン）をダブルクリックして設定開始。

4 友人の入れたアプリも判明



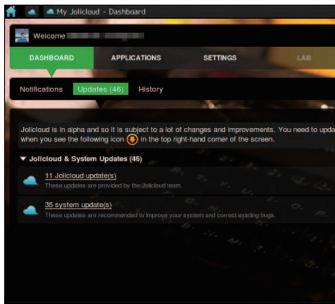
▲「DASHBOARD」では友人がジョリクラウドに入れたアプリや、友人のログインのお知らせなども表示される。

3 使用機種を選択しよう



▲ネットブックの機種を選択し、コンピュータの名前（任意）を入力。これでログインできる。

アップデート方法



▲アプリケーションの追加はきわめて簡単。それぞれのアイコンの下にある「INSTALL」ボタンをクリックしよう。アンインストールも「REMOVE」をクリックするだけ。
▲パッケージのアップデートも「My Jolicloud」で実行できる。上部にあるメニューのタブ「DASHBOARD」-「UPDATES」で更新されるパッケージが確認できる。

アプリの追加方法

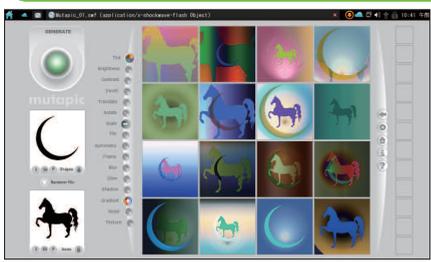


「My Jolicloud」の画面には、Ubuntuでもおなじみのローカルで使うアプリケーションだけでなく、各種のウェブアプリも数多く収録されている。「Googleドキュメント」や「Gmail」、「Twitter」などがある。そのほかの特徴的なアプリケーションをいくつか紹介しよう。

ジョリクラウドの豊富なアプリで遊ぼう！

キレイなアイコンをウェブでつくる!

Mutapic

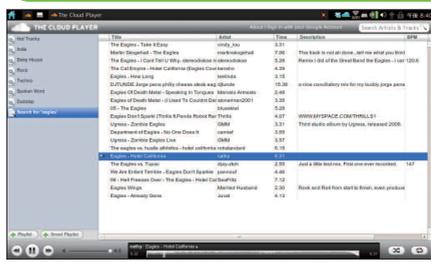


グラフィックス

▲画像やシェイプなどの素材を様々なモードで合成処理してグラフィックアートを作成できる。偶発的で予想もしないような、クールな画像が出来上がるところが面白い。

ラジオもウェブアプリから聴く!

THE CLOUD PLAYER

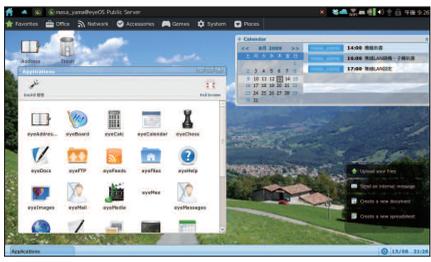


マルチメディア

▲ジョリクラウド独自のインターネットラジオプレイヤー。iTunesっぽいインタフェースで、右上の検索窓にアーティスト名を入力すると、お気に入りの曲を探せる。

クラウド環境を先取り!?

EyeOS



ウェブOS

▲オープンソースのウェブデスクトップとして有名なEyeOSもボタンひとつでインストール。動きが多少にぶい、近い将来のクラウド環境を実感できる。

iTunesライクな音楽アプリ

Songbird

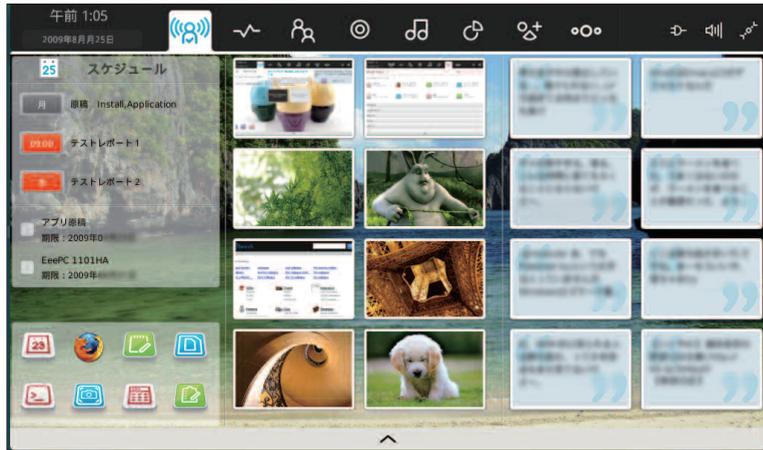


サウンド

▲Songbirdは、見た目だけでなく機能もiTunesそっくりだ。iPodと同期させて利用できる。これはウェブサービスではなく、ローカルにインストールされるアプリ。

ネットブック超活用ガイド

Moblin v2 Beta



▲Moblin v2の起動直後の画面。この画面はマイズーンと名づけられている。なめらかなアニメーションと画面効果がネットブックでも楽しめる。



▲日本の Moblin 公式サイト「Moblin.org」。特にユーザー登録しなくても、ダウンロードは可能だ。

Web site

<http://www.moblin.jp/>



▲開発途上なので1週間程度おきに版が変わる。[MOBLIN LIVE IMAGE FOR NETBOOK]と書かれたボタンを押して最新版をダウンロード。

Download

<http://www.moblin.jp/download.html>

Net Book
超活用
Guide

番外編 超高速OS、Moblinを試す!!

驚異の起動速度を体験してみよう!!

Moblinは、インテルのAtomプロセッサ・ベースのネットブックやモバイル端末に最適化された「デスクトップ」のような特徴は、起動時間の速さと、iPhoneやiPodのような雰囲気をもつ美しいインタフェースとその操作性。起動から使用可能になるまでに要する時間は、IDEのハードディスクを採用したネットブックで電源オンから35秒程度で、高速なSSDを搭載するPC

なら10秒の壁を破ることも可能。外出先で使うことの多いネットブックでも安心して電源オフできる起動速度だ。現時点でのベースのデスクトップバージョンはFedoraとなつていますが、Ubuntuでも次期バージョンの9.10(コードネーム「Karmic Koala」)で「Ubuntu Moblin Remix」の配布が予定されている。

「oblivion.org」が開発の主体となつている。現時点での最新版であるバージョン2.0ベータ版「Moblin Beta」ではアップデートにより多くの不具合が改善されつつある。アプリケーションのインストールやアップデート方法など、Ubuntuとは勝手の違うところもあるが、基本的に使い方は簡単だ。起動の速さを実感するとともに、その優れた操作性をいまから試しておいて損はない。Ubuntu版が出るまでは、使い方やカスタマイズの手順を「Moblin v2 Beta」で予行演習(?)しておこう。

USBメモリを使ってインストール開始!!

Moblinをインストールする

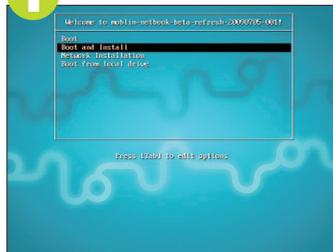
Moblinのインストールイメージは、UbuntuのようなISOファイルではなく、imgファイルとなつており、通常のライティングソフトではCDに焼けない。また、通常、ネットブックには光学ドライブがないので、USBメモリと27ページで紹介した「Win32 Image Writer」を利用してライブUSBを作成し、BIOS設定を確認したら、USBメモリから起動してインストールを開始しよう。

2 インストール開始画面



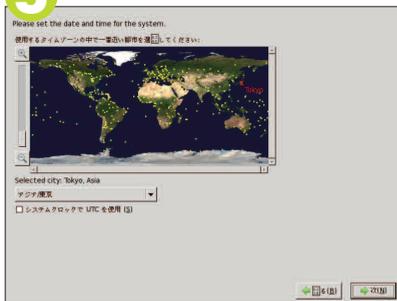
▲最初にこの画面が現われるので、右下の「Next」ボタンをクリックする。

1 インストールを選択



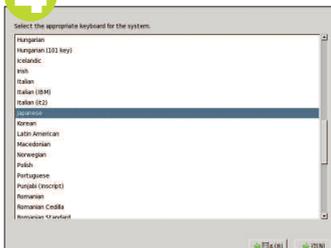
▲起動時の画面。インストーラを起動するには「Boot and Install」を選択する。

5 タイムゾーンの選択



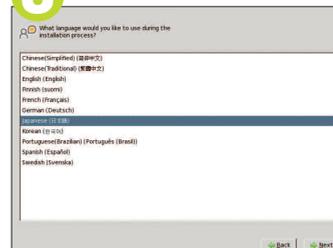
▲「アジア/東京」が選択されている。「システムクロックでUTCを使用」のチェックは外す。

4 キーボードを選択



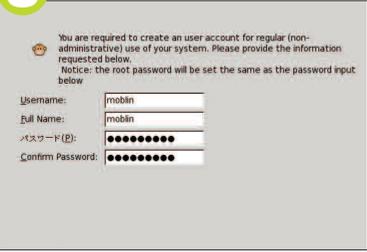
▲使用するキーボードの種類を選択。日本語キーボードであれば「Japanese」でいい。

3 言語を選択する



▲インストール中の言語を選択。ここでは「Japanese (日本語)」を選択する。

8 ユーザ名とパスワードを設定



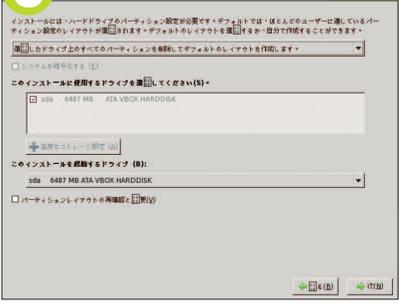
ここで設定したパスワードは、管理者のパスワードとしても使われるので覚えておく。

7 パーティションを設定



パーティションの設定に問題がないか慎重に確認し、右の「変更をディスクに書き込む」をクリックする。

6 パーティションの指定



インストール先を指定。HDDをまるごとMoblinにする場合は「すべてパーティションを削除」を指定する。



Finish Moblinが起動した!

設定したユーザ名とパスワードを入力してログインする。左は初回起動時のマイズーン。表示はほとんど日本語化されているものの、まだ日本語入力にはできない。入力メソッドのインストールが必要だ。

9 インストール開始



正常に終了すると、この画面が表示される。閉じるボタンをクリックすると、再起動でMoblinが起動する。

ネットワークにつないでおく



上部タブ右端にあるアイコンをクリック。WiFiとWiredをオンにし、自分の環境にあわせ設定しよう。

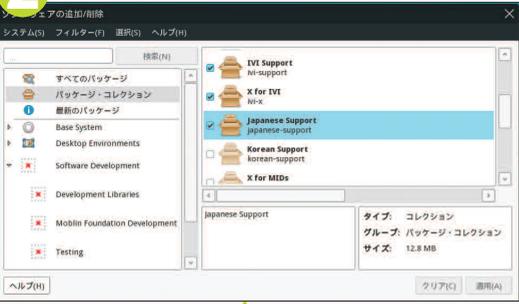
パッケージの追加とキーボード設定が必要

インストール直後のMoblinは、言語の設定で日本語を選択してインストールしても、日本語の入力ができない状態になっている。不足しているパッケージを導入し、キーボードも日本語キーボードに設定しておこう。追加するのは、「Japanese Support」というパッケージグループと「scim-anthy」というパッケージだ。パッケージの追加は、上部タブにある「アプリケーション」の「設定」の中にある「ソフトウェアの追加/削除」を用いる。

現在のMoblinはFedoraがベースになっているので、パッケージマネージャはUbuntuの「Synaptic」ではなく、「PackageKit」が採用されている。なお、この「ソフトウェアの追加/削除」は、他のアプリケーションを追加するときにも使われる。

Moblinの日本語環境を構築しよう!!

2 Japanese Supportを追加



上部タブで「アプリケーション」をクリックして「設定」を開く。そこにある「ソフトウェアの追加/削除」がパッケージ管理ソフト。これを使う。

左サイドの「パッケージ・コレクション」をクリックし、右側のコレクションにある「Japanese Support」にチェックを入れたら、右下の「適用」をクリック。

4 キーボードの設定



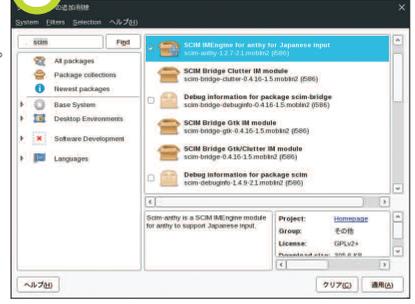
左上の検索窓に「scim」と入力し、右の検索ボタンをクリックすると、検索結果が表示される。「scim-anthy」を探してチェックを入れ、適用ボタンをクリック。

「アプリケーション」-「設定」にある「SCIM入力メソッドの設定」を起動。「全体設定」のキーボード配列に「日本語」を選択。開始/終了に「半角/全角」キーを指定しておけば使いやすい。

1 ソフトウェアの追加/削除



3 scim-anthyを追加



ネットブック超活用ガイド

Moblinのマイゾーンの画面



外出先でも使いやすい
シンプルでデスクトップ

Moblinのインタフェースは、左から順に、マイゾーン、ステータス、ピープル、インターネット、メディア、ペーストボード、アプリケーション、ゾーンという8つの領域に分かれている。それぞれの領域は、上部のタブで切り替えることができる。マイゾーンには、中央に「最近開いたアプリのサムネイル」、右サイドに「Twitterのタイムライン」、左サイドには、カレンダーに書き込んだ予定やお気に入りのアプリのランチャーなどが配置される。

右上の3つのタブは、左から「ディスプレイ明度」、「出力音量」、「ネットワーク」という名のとおり、それぞれハードウェア関連の設定を行う場所だ。ディスプレイ明度のタブでは、バッテリーの残量も表示される。ネットワークでは、有線LANと無線LANの接続状況が表示され、オン・オフの切り替えも可能だ。無線LANは、起動するたびに改めて有効にしなければならぬ場合もあり、今後の改善に期待したい。

Net Book 超活用 Guide

Moblinのデスクトップを知って使いこなそう!!

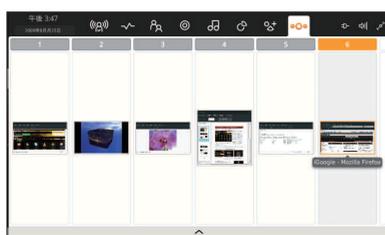
ペーストボード



コピー&ペーストを効率よく!

コピーしたテキストがここに順次保存される。右サイドの「コピー」で、その時点で選択状態になっているテキストをエントリーに加えられる。複数箇所のコピーをいつでも貼り付けられて非常に便利。[ペーストボードをクリア]ですべてのエントリーを消去。

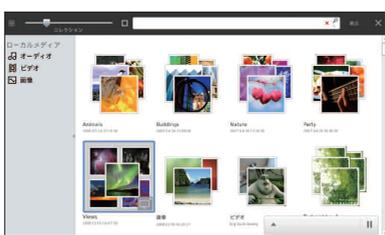
ゾーン



仮想デスクトップを切り替え

アプリを起動して新しいウィンドウが生成されると、そのたびにゾーンのプレビューがアニメーションで表示されて、新たなゾーンが開く。ひとつのゾーンに複数のウィンドウを配置することも可能。Ubuntuの仮想デスクトップに相当するものと考えていこう。

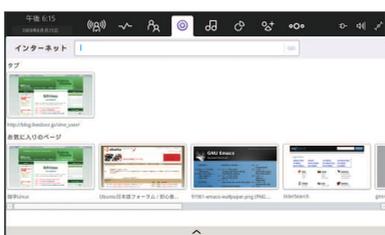
メディア



操作が楽しいメディアプレイヤー

Moblin独自のメディアプレイヤー。音楽・画像・動画を表示、再生できる。左下の格子状のボタンをクリックすると、ファイルを一覧表示。すべてのファイルを表示した状態で左上のスライダーを操作すると、縮小されてフォルダごとにまとめられていく。

インターネット



グラフィカルなブラウザ

Moblin独自のウェブブラウザ。URL欄に検索キーワードを入力すると、Googleの「I'm Feeling Lucky」と同様に検索トップのサイトが表示される。閲覧したサイトは履歴が残る。現時点では日本語が入力できないため、Firefoxなど他のブラウザを利用しよう。

アプリケーション



お気に入りのアプリを登録！ マイゾーンから起動できる

インストール済みのアプリは、ここから起動する。それぞれのアプリは「お気に入りのアプリケーション」「アクセサリ」「インターネット」「オフィス」「ゲーム」「メディア」「設定」という7つのカテゴリに分類・整理されている。

「ファイルブラウザ」と「端末」は「アクセサリ」の中に、「ソフトウェアの追加/削除」は「設定」の中にある。それぞれの項目の右上にあるピンマークをクリックするだけで、最上位の「お気に入りのアプリケーション」に登録される。このうち、最大8つのアプリが、メイン画面である「マイゾーン」の左下に表示される。

Moblinに最適なアプリをインストール!

Moblinをもっと便利にするアプリを追加

ネットブックは、インターネットを活用することでその威力を発揮する。また、標準的なノートパソコンに比べてグラフィック機能が劣っていたり、液晶画面が小さかったりするため、通常のアプリでは動作がぶいことがある。ここでは、そうしたネットブックの特徴を踏まえて、Moblinに追加

【ソフトウェアの追加/削除】からインストール



■「firefox」で検索して、チェックを入れ、「適用」をクリックする。パスワードを要求されるが、インストール時に設定したユーザーのものを使えばいい。

「端末」からのインストール

Command

```
sudo yum update
sudo yum install firefox
```

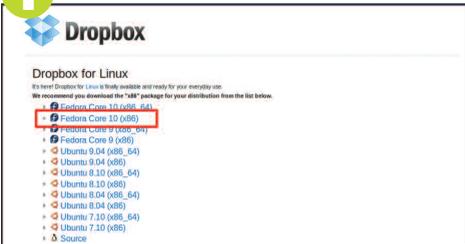
■「sudo apt-get install パッケージ名」ではなく「sudo yum install パッケージ名」の形で行う。Fedoraとは異なり、Ubuntuのように「sudo」コマンドが使えるところがMoblinの特徴だ。

すると使い勝手が向上するアプリケーションをいくつか紹介しよう。アプリケーションの追加の手順は、「ソフトウェアの追加/削除」を使えばUbuntuとほとんど変わらない。ウェブサービスを利用するために、標準のブラウザでは日本語入力ができないので、まずはFirefoxを追加しよう。「F11」キーで全画面表示して使うと便利だ。

その他にも、Gmailなどのウェブサービスの活用を検討しよう。「Prism」を利用すればローカルのアプリのように使えるはずだが、残念ながら現時点ではMoblin用のパッケージは提供されておらず「Prism for Firefox」も正常に動作しない。が、FirefoxのコマンドにサイトのURLを指定したショートカットを作成して「F11」で全画面表示すれば、同様の環境を作ること可能だ。

人気のオンラインストレージサービス Dropboxで他のPCとファイルを同期!

1 Fedora Core用をダウンロード



■Dropboxは、無償で2GBまでのデータが保存可能だ。Moblin用パッケージはないが、Fedora Core 10用のrpmファイルが使用できる。

<http://www.getdropbox.com/downloading>

2 ダブルクリックでインストール



■ダウンロードしたパッケージをダブルクリックすれば簡単にインストールできる。インストール後に、ログインしなおすと、左のセットアップ画面が表示される。アカウントを持っていないければ、上の項目にチェックを入れて登録しよう。

3 Dropboxフォルダができる

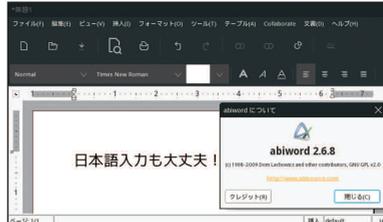


■[インターネット]の中の「File Sync synchronizer」をクリック。ホームフォルダの中に「Dropbox」フォルダができ、他のPCとファイルを同期できる。

ネットブックでもらくらく使える 軽快アプリケーションはコレ!

日本語も使えるワープロソフト

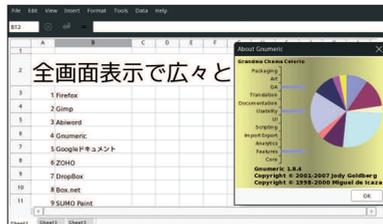
Abiword オフィス



■ワープロソフトはAbiwordがおすすめ。『OpenOffice.org Writer』より動作が軽い。インストールは「ソフトウェアの追加/削除」から「abiword」で検索する。

軽量な表計算ソフト

Gnumeric オフィス



■基本的な機能は備えているので、これで十分。OpenOffice.orgやエクセル形式にも対応する。インストールは「ソフトウェアの追加/削除」から「gnumeric」で検索。

定番・高機能な画像編集ソフト

GIMP グラフィック



■画像処理ソフトは、定番のGIMPがやはりおすすめ。Moblinには入っていないので追加しておこう。インストールは「ソフトウェアの追加/削除」から「gimp」で検索。

ネットブック超活用ガイド

9.04 インストール CHECK

LAN

有線・無線ともに9.04では認識せず。無線はカーネル2.6.30以降で認識。次期バージョン9.10

サウンド/ボリューム

特に問題は見あたらない。ボリューム調整のホットキーも問題なく使える。

グラフィック

インストール直後から1366×768の解像度で表示される。Cmpizの3D効果も利用可能。

輝度調整

そのままでは画面が暗い。コマンドで調整することも可能だが、次期バージョン9.10待ち。

その他

パーティション構成が単純なので、デュアルブートでのインストールも容易。

ソニー VAIO W Series

●<http://www.vaio.sony.co.jp/vaio/products/W/>

直販価格 **5万9800円**

起動時間 Win→68秒 Ubuntu→55秒

CPU	インテル Atom N280(1.66GHz)
メモリー	1GB
グラフィック	インテル GMA950
ディスプレイ	10.1型ワイド(1366×768ドット)
ストレージ	HDD 160GB
通信	100BASE-T、IEEE802.11b/g/n、Bluetooth
その他	ウェブカメラ、メモリースティックDuoスロット、SD/MMCカードスロット
バッテリー駆動時間	約3.5時間(Sバッテリー)
サイズ	267.8×179.6×27.5mm
重量	約1.19kg



導入はカンタンだが9・10がオススメかも
スタイリッシュで軽量なボディと1366×768ドットの「ワイド液晶」が特徴のソニーの本格的なネットブック。大きさのわりに非常に軽く感じる。Ubuntu 9・04の導入は比較的容易だ。次期バージョンの開発版の9・10アルファ4では有線・無線LANとも問題なく利用できたので、最新版の9・10を入れたほうがいいかもしれない。

Net Book 超活用 Guide

人気ネットブック5機種インストールガイド

ディスプレイ

CHECK

コマンドでデスクトップの輝度を調整!

調整のホットキーは機能しない

VAIO WシリーズにインストールしたUbuntu 9.04では、画面が暗く表示されてしまう。また、輝度調整のホットキーが使えないため、現時点ではコマンドで調整するしかない。なお、9.10アルファ4版ではこの問題は解消されていた。

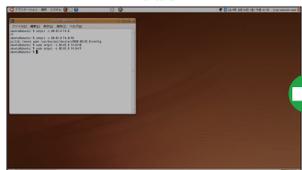
最大輝度にするコマンド

```
sudo setpci -s 00:02.0 F4.B=FF
```

輝度を抑えるコマンド

```
sudo setpci -s 00:02.0 F4.B=50
```

コマンド入力前



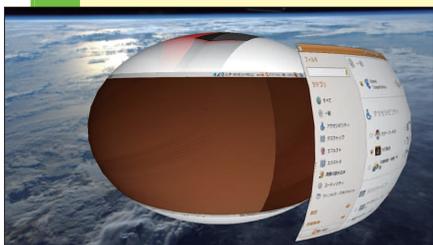
◆インストール直後は画面が暗く見づらい。コマンドで輝度をあげよう。

コマンド入力後



◆明るく見やすくなった。9.10では問題なく正常な明るさで表示される。

Compiz Fusionも動くネットブックなのだ!



◆Ubuntu 9.04がインストールできれば、3DデスクトップのCompiz Fusionを利用できる。映像再生などの重い処理と併用するのは厳しいが、デスクトップ・キューブも実行可能。VAIO WシリーズにUbuntuを入れたらぜひ試してみよう。

パーティション

CHECK

構成がシンプルでデュアルブートも容易にできる

/dev/sda2を縮小する



◆/dev/sda1がリカバリ領域、/dev/sda2がWindowsのCドライブとなっている。ここを縮小してUbuntuを導入しよう。

リカバリ領域が先頭にある標準タイプ

VAIO Wシリーズのパーティション構成は、リカバリ領域が先頭にあり、残りがWindowsのCドライブというシンプルなものになっているので、Cドライブを縮小して確保した領域にUbuntuを導入すれば容易にデュアルブートさせることが可能だ(パーティション設定時に「それぞれ別のものとしてインストール」を選ぶ)。最近のネットブックはハードディスク内にリカバリ領域を用意していることが多く、この領域を消してしまうと、プリインストールされているXPがリカバリ不能になるので注意。

有線・無線LAN

CHECK

9.04ではネットワークに難あり!

Atherosチップは鬼門?



◆もちろんWindows XPでの動作は問題ない。9.10のリリースまで待つか、9.10の開発版を入れて試してみよう。

9.10を待ってインストールでもOK

VAIO Wシリーズで使われているネットワークチップは、有線LANが「Atheros AR8132」、無線LANが「Atheros AR9285」という台湾Atheros社のもので、これらはUbuntu 9.04のカーネル2.6.28には対応していない。現時点でこの問題を解消するには、Ubuntuでの動作が確認されているUSB接続のLANアダプタを別途用意して使うのが、最も簡単な解決法だ。

ただし、次期Ubuntu 9.10のアルファ版では無線LANは動作したので、9.10ベータ版を試験的に使うか、正式リリースを待ってインストールというのもひとつの手だ。

注意
ここで取り上げる機種はいずれもUbuntu 9.04をサポートしていないため、メーカーサポートを受けることはできません。ご自身の責任において実行してください。

9.04 インストール CHECK

LAN

有線・無線ともに9.04では認識せず。別途ドライバを導入する必要がある。次期9.10待ち。

サウンド/ボリューム

特に問題なし。ボリューム調整のホットキーも問題なく使える。

グラフィック

解像度1024×600ドットで正常に認識される。表示も安定しており、Compizも利用可能。

輝度調整

画面は正常な明るさで表示される。ホットキーについても問題なく正常に動作する。

その他

パーティション構成は複雑。1101HAと異なり、タッチパッドでのクリックは問題なし。

ASUSTeK EeePC 1005HA (Seashell)

●<http://eeepe.asus.com/jp/>

実売価格 **4万7800円**

起動時間 Win→**35秒** Ubuntu→**48秒**

CPU	インテル Atom N280 (1.66GHz)
メモリー	1GB
グラフィック	インテル GMA950
ディスプレイ	10.1型ワイド(1024×600ドット)
ストレージ	HDD 160GB
通信	100BASE-T、IEEE802.11b/g/n、Bluetooth
その他	ウェブカメラ、SD/MMCカードスロット
バッテリー駆動時間	約10.2時間
サイズ	262×178×25.9mm
重量	約1.27kg



LAN以外はほぼ無問題比較的導入しやすい機種
1101HAと同等の最長約10・2時間のバッテリー駆動が特徴の新機種。ほかに、MSオフィス搭載モデルもラインアップされている。画面サイズが1101HAよりやや狭いが、Ubuntu 9・04では表示の不具合はなく、こちらのほうがUbuntuに適しているといえよう。また、Windowsの起動を高速化する「Boot Booster」に使われる領域を残しておけば、デュアルブートを構築した後もWindowsの起動時間は短縮されるはずだ。

無線LAN

CHECK

backportsの
ドライバーで
動かしてみよう!

ほかの手段でネットにつなぐ必要はあるが

無線LANには「Atheros AR9285」が使われている。これに対応するath9k ドライバを導入するため、USBのLANアダプタなど他の手段でネットワーク接続を確立しておこう。

1 ソフトウェア・ソースの設定



■ [システム] - [システム管理] - [ソフトウェア・ソース] を起動して、jaunty-backportsのリポジトリを追加する。アップデートのタブで [サポートされていないアップデート (jaunty-backports)] にチェックを入れる。ただし、不安定なパッケージも含まれているので、設定終了後は無効にしておいたほうがよい。

2 コマンドでパッケージを追加

```
$ sudo apt-get update
$ sudo apt-get install linux-backports-modules-jaunty
```

■追加する「linux-backports-modules-jaunty」がSynapticパッケージマネージャで見つからない場合は、[アプリケーション] - [アクセスリ] - [端末] で端末を起動し、上のコマンドでインストールしよう。

3 再起動して接続可能に!



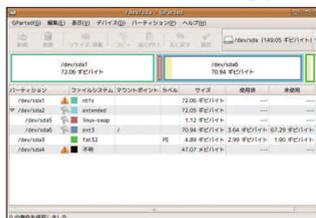
■再起動後、パネル上のNetwork Managerのアイコンをクリックすればアクセスポイントが表示されるはずだ。あとはパスワードを入力するだけでアクセスできるようになる。

パーティション

CHECK

構成は複雑だが
デュアルブート
は可能だ

Ubuntuインストール後



■Ubuntu 導入後のパーティション。D ドライブ (sda2) をSWAPとルート、2つの論理パーティションに置き換えている。

Boot Booster領域に注意しよう!

EeePC 1005HAのパーティションは、1101HAとまったく同じ構成になっている。リカバリ領域とBootBooster用の領域が最後尾にあるので、BootBoosterを生かしたまま、リカバリ領域に影響を与えずにデュアルブートするには、Windowsで言うDドライブ全体にUbuntuをインストールするように指定するのが影響を最小限に止める方法だろう。分解するのは非常に難しい。また、デュアルブート構成にする場合、Swapパーティションを作成しないと、ハイパーネーションが利用できなくなる。

キーボード

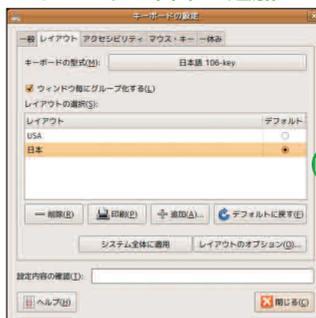
CHECK

日本語キーボード
をUbuntuで
認識させる

日本語レイアウトを追加する

インストール時に日本語キーボードを指定しても、起動した際に正常に認識されない。これは、[システム] - [設定] - [キーボード] で設定しなおせば改善できる。

レイアウトに日本を追加



レイアウトを選択



■レイアウトがUSAのみなので、[追加] ボタンをクリックして日本語を選択しよう。

ネットブック超活用ガイド

8.04 CHECK

LAN

有線・無線ともに問題なし。無線LANチップ「Broadcom BCM4312」、有線LANチップ「Realtek RTL8101E」

サウンド/ボリューム

問題なし。ボリューム調整のホットキーも問題なく使える。

グラフィック

インストール直後から1024×600の解像度で表示される。Compizも利用可能。

輝度調整

問題なし。輝度調整のホットキーも問題なく使える。

その他

リカバリー領域が後ろにあるので、要注意。

デル Inspiron Mini 10v

●<http://www.dell.com/jp> 直販価格 3万4180円前後

CPU	インテル Atom N270 (1.6GHz)
メモリー	1GB
グラフィック	インテル GMA950
ディスプレイ	10.1型ワイド (1024×600ドット)
ストレージ	HDD 160GB
サイズ	261×182.5×26.8mm
重量	約1.13kg

起動時間

Ubuntu 8.04 (DELLカスタマイズ版)

→45秒



カスタマイズされた Netbook Remix

Ubuntuがプリインストールされた貴重なネットブック。さすがにハードウェア対応は完璧。有線LAN、無線LANともに問題なく利用できる。ただし、最新版の9.04にアップグレードすると、タッチパッドが正常に動作しないなどの不具合に直面する。そのまま使うのが妥当な選択だ。

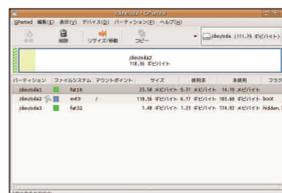
Compiz Fusionも動作!

●デフォルトの「DELLデスクトップ」からクラシックデスクトップに切り替えれば、Compizも動作する。ただしLUNRのランチャは白くなってしまふ。



パーティション構成

●リカバリー領域が最後部分にある。デュアルブートに挑戦するなら、最後部分のFAT32でフォーマットされたパーティションを消してはダメ。



9.04 CHECK

LAN

有線・無線ともに9.04では認識せず。無線はカーネル2.6.30以降で認識。次期バージョン9.10待ち。

サウンド/ボリューム

特に問題なし。ボリューム調整のホットキーも問題なく使える。

グラフィック

解像度が1024×600で認識されてしまい、高解像度が生かせない。Compizも利用不可。

輝度調整

そのままでは画面が暗い。コマンドで調整するのは難しく、次期バージョン9.10の対応待ち。

その他

パーティション構成が複雑で、デュアルブートには注意が必要。タッチパッドでクリック不可。

ASUSTeK EeePC 1101HA (Seashell)

●<http://eeeec.asus.com/jp/>

実売価格 5万6800円

CPU	インテル Atom Z520
メモリー	1GB
グラフィック	インテル GMA500
ディスプレイ	11.6型ワイド (1366×768ドット)
ストレージ	HDD 160GB
サイズ	286×196×21.8mm
重量	約1.38kg

起動時間

Win→38秒

Ubuntu→52秒



難易度は高め!? 導入は手強いモデル

大画面(11.6型)の液晶とバッテリー駆動最長約10・7時間のスタミナが特徴の新製品。「Boot Booster」という機能により、Windowsの起動時間の短縮を実現している。この機能はHDDの最後尾の専用パーティションを使っているため、この領域を削除すると、有効にできなくなる。

Ubuntu 9.04では、本来の解像度を使うことができず、表示もかなり不安定になっている。GMA500に対応しているはずのPulsarドライバーでも改善せず、カーネルをより新しい「2.6.30」に入れ替えても正常な表示はできないようだ。9・10での状況改善を期待したい。

VAIO Wと同じ状況



●VAIO typeWと同じAtherosのLANチップが使われている。次期バージョンの開発版では改善されているので、9.10に期待しよう。

タッチパッド

CHECK

Ubuntuではパッド上のクリックがダメ

パームレストと一体のデザインのタッチパッド。Ubuntu 9.04でもタッチパッドによるドラッグは利用可能だが、タップによるクリック動作ができないようだ。今回は時間切れで、解決法が見つからなかった。

美しいデザインのタッチパッドだが



●タッチパッドの境界はややわかりづらいもののデザインは美しい。

パーティション

CHECK

UbuntuはDドライブ縮小でインストール

リカバリー領域とBoot Booster用の領域が最後尾にあり、WindowsのCドライブとDドライブがその前にあるので、機能を生かしたままデュアルブートするには、Dドライブを縮小するか削除するしかない。

Boot Booster機能で構成はやはり複雑



●1005HAと同様のパーティション構成で導入するのがいいだろう。

ネットブック超活用ガイド

9.04 インストール CHECK

LAN
有線・無線ともに9.04では認識せず。無線はカーネル2.6.30以降で認識。次期バージョン9.10待ち。

サウンド/ボリューム
特に問題なし。ボリューム調整のホットキーも問題なく使える。

グラフィック
インストール直後から1024×600の解像度で表示される。Coppellの3D効果も利用可能。

輝度調整
特に問題なし。ホットキーも問題なく使える。

その他
HDDは精密ドライバー1本で簡単に交換可能。SSDを使えば、さらに高速な起動が期待できる。

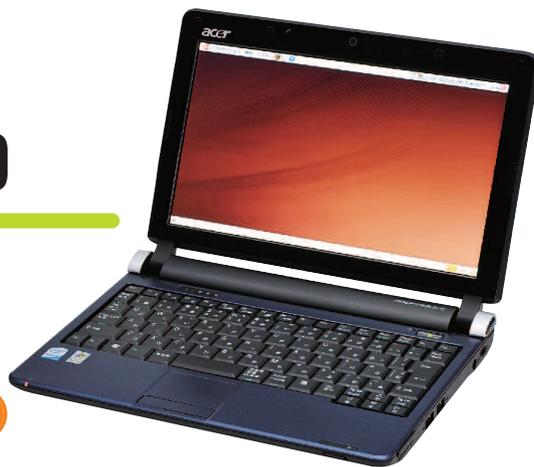
日本エイサー Aspire One D250

●<http://www.acer.co.jp/>

実売価格 **3万9800円**

起動時間 Win→62秒 Ubuntu→45秒

CPU	インテル Atom N280 (1.66GHz)
メモリー	1GB
グラフィック	インテル GMA950
ディスプレイ	10.1型ワイド (1024×600ドット)
ストレージ	HDD 160GB
通信	100BASE-T、IEEE802.11b/g/、Bluetooth
その他	ウェブカメラ、SD/MMC/MS/MS Pro/xDカードスロット
バッテリー駆動時間	約3.5時間 (3セルバッテリー)
サイズ	258.5×184×25.4mm
重量	約1.07kg



ネットブックチップ以外は快適に動作する

従来モデルの「Aspire one D150」より本体が薄く軽量になり、携帯性を向上させたモデル。Ubuntu 9.04では、LAN接続に問題があるものの、画面表示やホットキーの使用などは全く問題なし。なお、Moblinのインストールをしてみたところ、なんと30秒で起動した。Atherosのネットワークチップの動作が問題だが、それ以外の機能はUbuntuでも十分に使える、またWindowsより起動が速くなるため、満足度は高いだらう。

有線LAN

CHECK

ドライバの導入に挑戦してみた!!

手順は面倒だがやってみる価値あり!?

これまで認識できなかったAtheros AR8132だが、ネットにつながり代替手段があればドライバを導入できる。

1 ソースファイルの入手

まず、下記のサイトから有線LANドライバのソースファイルをダウンロードしておこう。

ファイル

AR81Family-linux-v1.0.0.10.tar.gz

ダウンロードサイト

<http://partner.atheros.com/Drivers.aspx>

2 必要なパッケージを導入

■コンパイルに必要なパッケージと「linux-headers」をSynapticでインストール。linux-headersは、利用しているカーネルのバージョンと同じものを選ぶ。



3 端末でコマンド実行

```
$ cd atheros
$ gunzip AR81Family-linux-v1.0.0.10.tar.gz
$ tar xvf AR81Family-linux-v1.0.0.10.tar
$ cd src
$ make
$ sudo make install
$ sudo modprobe at1le
```

■ユーザー名をubuntuとして、ダウンロードファイルは、ホームディレクトリのatherosフォルダにあるものとする。



4 有線LANを認識した!

■以上の処理が無事に終了すれば、有線LANがきちんと認識されるはずだ。再起動後も、自動的にドライバが読み込まれて、有線LANが普通に使えるようになる。ドライバの名称は「atheros_eth」。

パーティション

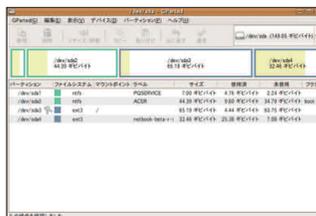
CHECK

シンプルなパーティション構成で容易

トリプルブートにも挑戦できる!

パーティション構成は比較的シンプルで、先頭にあるVistaのブートローダーを利用したりカバリー領域とCドライブのみからなる。Cドライブを縮小してUbuntuをインストールすればデュアルブートが可能だ。やろうと思えば、左図のようにMoblinとのトリプルブートも実現できる。「/dev/sda1」がカバリー領域、「/dev/sda2」がWindows XPで、「/dev/sda3」にUbuntu 9.04 (Netbook Remix)、「/dev/sda4」にMoblin v2をインストールした。ただし、HDDが簡単に交換できるので、専用HDDを用意したほうが安全だ。

Moblinも入れて3つのOS



■CドライブをXP部分を残して3つのパーティションに分割。残りの2つにUbuntuとMoblinを導入。

無線LAN

CHECK

ネットワークが唯一、最大の問題となる

USBのLANアダプタ購入を検討しよう

Aspireone D250のネットワークチップは有線LANが「Atheros AR8132」、無線LANが「Atheros AR5007EG」といういずれもAtheros社のもので、残念ながらUbuntu 9.04では、無線LANは認識するものの接続に失敗、有線LANは認識すらしないという状態だ。現時点では、USB接続LANアダプタ (Ubuntuでの接続が確認されているもの) を別途用意するのが、最も簡単な解決方法だろう。今回紹介したネットブックのAtherosチップは、ほとんど動作していない。次期バージョン9.10での改善を期待したいところだ。

LANチップを確認しよう



■Ubuntuをインストールする前にWindows上で、LANチップを確認しておこう。多くのネットブックで使われるAtherosは要注意だ。